

家庭部門の温室効果ガス排出量が減りにくい理由

別紙 1-3

- 世帯あたりのエネルギー消費量は減少してきているが、世帯数が増加しているため。
- 家庭部門のCO₂削減のためには、住宅の省エネ化・再エネ導入に取り組むとともに、区民一人ひとりの省エネの工夫の実践率を高めることが必要。

1 練馬区の世帯数とエネルギー消費量の関係

出典：「東京都提供資料」を基に作成

家庭部門のエネルギー消費量

家庭部門のエネルギー消費は、「世帯当たり消費量×世帯数」で表すことができる。そのため、世帯当たり消費量の増減（原単位要因）及び世帯数の増減（世帯数要因）が、家庭部門のエネルギー消費の増減に影響を与える。

出典：資源エネルギー庁「エネルギー動向（2025年6月版）」

エネルギー消費の増減要因とCO₂

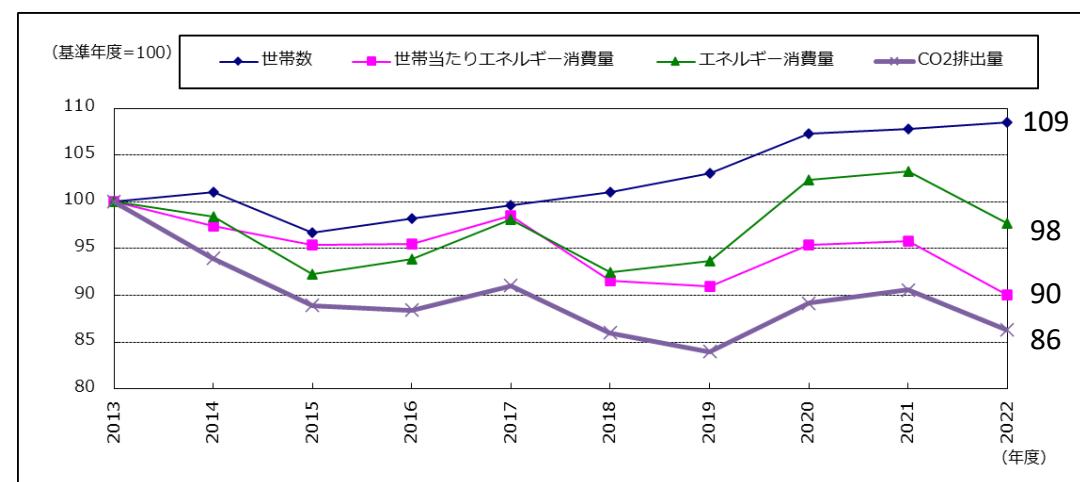
1 世帯数

年度	世帯数	対2013年度比
2013	349,486	—
2022	379,325	8.5%
2025	400,533	14.6%

2 世帯数当たりエネルギー消費量

年度	世帯あたりエネルギー消費量	対2013年度比
2013	約32.2GJ	—
2022	約29.0GJ	-10.0%

3 2013年度を100とした場合の変化率

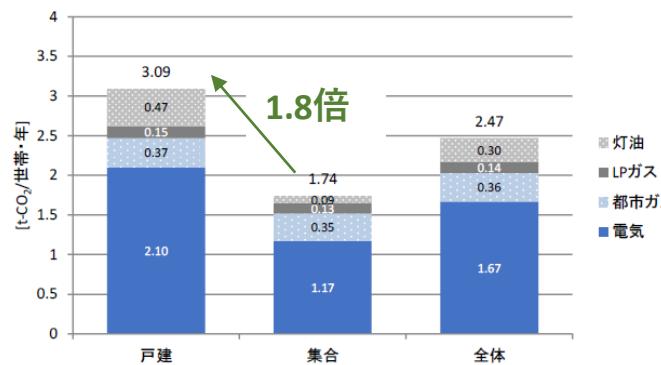


- 2013年度比で世帯数は9%増、世帯当たりのエネルギー消費は10%減
- 世帯当たりのエネルギー消費量の減少傾向は、世帯人員の減少等が主な要因とされている。更に2011年度以降は、節電の取組や省エネ機器の導入が進んだことも要因とされている。

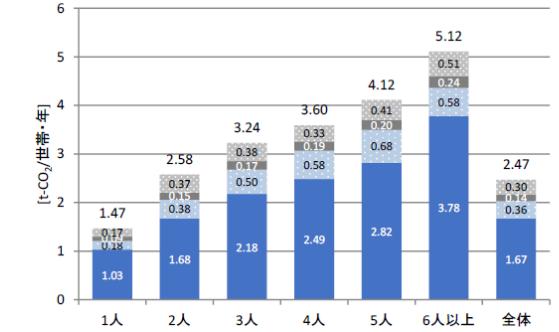
2 家庭部門のCO₂排出実態（全国）

出典：環境省「令和5年度家庭部門のCO₂排出実態統計
調査結果について（確定値）」を基に作成

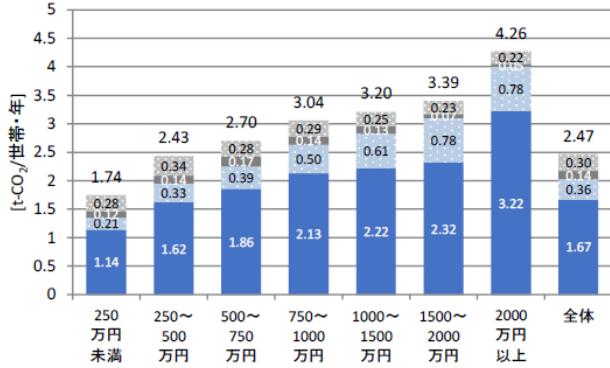
1 建て方別世帯あたりCO₂年間排出量



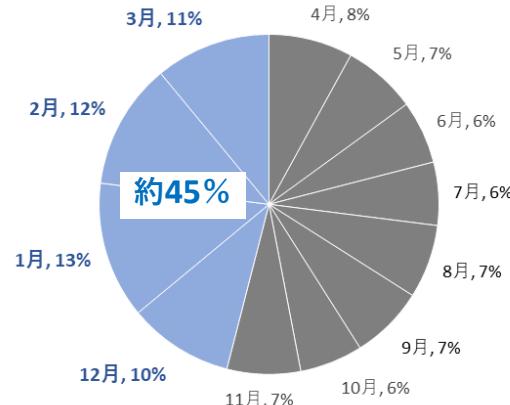
2 世帯人数とCO₂排出量



3 世帯年収とCO₂排出量



4 CO₂年間排出量の季節変化



- 1月が最多311kg-CO₂、6月が最少140kg-CO₂
- 12～3月で全体の約45%を占める。

5 省エネ・再エネ設備導入状況

(1) 太陽光発電システム

- 使用している世帯の割合は、戸建て住宅で11.7%、集合住宅で0%、全体では6.3%
- 使用ありの世帯（戸建住宅）の年間CO₂排出量は、2.79 t-CO₂、使用なしの世帯は3.13 t-CO₂

(2) 二重サッシまたは複層ガラスの窓

- 全ての窓にある世帯は24%、一部の窓にある世帯は16%

※ 【参考】省エネに関する区民意識（令和4年）

- 節電等の省エネルギーに「積極的に取り組んでいる」人は約1割
- 自宅への再エネ・省エネ設備を「導入していない（導入する予定はない）」が約6割